

新入生合宿研修を終えて

学生支援委員会委員 齋藤 功
歯科矯正学分野・教授

毎年恒例となっている新潟大学歯学部新入生合宿研修を、今年も4月15日(土)、16日(日)の日程で、歯学部およびウェルサンピア新潟において開催しました。この研修は、新入生ならびに3年次編入生を対象としたものですが、今年度は新たに口腔生命福祉学科3年次編入生が加わったことから、学生参加者数は、歯学科新入生45名(3年次編入生5名を含む)、口腔生命福祉学科新入生30名(3年次編入生10名を含む)の計75名と昨年度より10名増となりました。参加教員は、山田歯学部長、宮崎医歯学総合病院副院長、富沢口腔生命福祉学科長をはじめ、学務・教務委員会関連の教員5名、学生支援委員会関連の教員5名の13名で、運営に当たっては事務方2名、学生アシスタントとして歯学科2年生4名、口腔生命福祉学科2年生2名にもお手伝いいただきました。

初日、朝9:00に歯学部大会議室に集合し研修がスタートしました。昨年度よりも新入生が10名増えたことで大会議室は立錐の余地もない状態でしたが、親近感を高めるにはかえって好都合だった?かもしれません。また、例年は合宿研修が入学式直後の週末開催であったため参加者の緊張感

はかなり強かったように思いますが、今年は開催が一週間遅くなり、新入生諸君はすでに自発的に親睦を図っていたことから比較的和やかな雰囲気でも始まりました。

まず、学部長、副院長から、勉学に励むことはもちろん是非クラブ活動やサークル活動に参加して充実した学生生活を送ってほしいとのご挨拶があった後、全体ガイダンスとして歯学部のカリキュラム、全国共用試験、院内感染対策など、学部生活を送っていく上での主要な事柄について各担当教員より説明がありました。

次に、8つのグループに分かれ、アイスブレイキングを兼ねた簡単なゲームを行った後、自己研鑽セミナーⅠとして「砂漠で遭難したときにどうするか」というシナリオをもとにしたコンセンサスゲームへと進みました。コンセンサスゲームでは、砂漠で遭難した時生きるために所持品をどう優先付けするかについてグループ討議を行いました。このグループ討議の実践では、好ましい討論のあり方についての基本事項、すなわち、より好ましいグループ意思決定には感情的ではない論理的な意見の主張が大切で、同時に他者の意見にも



耳を傾けることが必要なことを知ってもらえたらと考えています。

昼食終了後バスで新潟市赤塚にあるウェルサンピア新潟に移動し、場所を移して午後の研修を開始しました。午後は、午前中と同様グループに分かれ、自己研鑽セミナーⅡとして【面接試験に物申す「異論／反論オブジェクション」―面接試験での問題点と対策を検討する―】と題したテーマをもとに、問題発見・解決法として簡便かつ有効であるとされるK-J法と二次元展開法について実践してもらいました。

午後の研鑽セミナーでは、グループ内で司会進行、発表、報告係などの役割を決め、自分たちが実際に体験した面接試験について様々な観点から良い点や問題点を発見し、また、問題点の解決策を考えるにあたっては、重要度、緊急度に配慮しながら議論してもらいました。これらの作業では、グループ討議の有効性や問題解決の方法論の一部について理解してもらうことを期待しています。そしてセミナーの最後では、グループごとに議論の経過や議論により得られた結論を参加者の前で発表してもらいました。

面接試験に関して各グループから得られた結論（プロダクト）は、毎年1年次前期の「歯学スタンダードスキルズ」でパワーポイントなどを使って学生自身が整理し、その結果は、歯学部入試実施委員会を通して教授会あるいは面接委員に周知され、今後の面接試験がより効果的なものになるよう役立てられています。すなわち、新入生諸君は、間接的ではありますが、面接試験の改善に一役買っていることとなります。

研鑽セミナー終了後は懇親会を兼ねた夕食会へ

と移行し、歯学部先輩たちによる趣向を凝らしたクラブ紹介も行われました。翌日は朝から学生ガイダンスⅡとして履修相談があり、続いてグループ対抗バレーボール大会を開催しさらに交流を深めてもらいました。

新入生合宿研修は、平成12年よりワークショップ形式となり、参加者自らが問題を発見、議論、解決策を検討し、発表するという形で行われてきました。私はここ数年参加してみて、多くの新入生が人前で臆することなく意見を堂々と発表できることに驚いています。特に、今年の新入生の多くは、いわゆる「ゆとり教育第一世代」と言われ、新学習指導要領の下で学んできています。ゆとり教育には賛否両論ありますが、賛の部分としては、総合学習を取り入れることで、問題発見解決能力の育成と人前で自分の考えをプレゼンテーションする能力の養成を重要視している点が挙げられます。歯学科では2年前より、また、口腔生命福祉学科では開設当初より、問題基盤型学習（PBL）を取り入れていることから、すでに初等中等教育においてPBLの基本を体験してきたものが多いということはPBLの学習効果がより高まることが期待されます。

歯学部では、人間性豊かで自ら問題を解決できる能力を有する人材の育成を目指しています。スタートラインに立った新入生の皆さんが、新入生合宿研修で体験、習得した、コミュニケーションのあり方の基本、問題発見と解決技法ならびに人と議論することの重要性について理解し、これからの学生生活をより充実した、有意義なものとしてくれることを願っています。

